

## <ご参考>進学希望者からよく寄せられる質問について

2026年

法政大学大学院キャリアデザイン学研究科  
進学相談会

本研究科での履修等に関する基本事項は以下からご覧いただけます。あわせてご確認ください。

大学院要項（要項）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo1NjMxNTgsImNhdkVnb3J5TnVtIjo3MDc2fQ==&pNo=1>

修了要件・履修案内・時間割・シラバス

<https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/yoken/>

キャリアデザイン学専攻 履修案内

[https://www.hosei.ac.jp/application/files/7617/7338/4828/15\\_2026-CD.pdf](https://www.hosei.ac.jp/application/files/7617/7338/4828/15_2026-CD.pdf)

入試要項

<https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/applicationguidelines/>

### 1. 研究計画書には何を書けばよいですか？

研究計画書に書くべきことは主に、「研究テーマ」「研究の意義」「研究対象と方法」です。

「研究テーマ」には、自分が修士論文を通じて明らかにしたいことを書きます。研究テーマの立て方については、学術的な論文・レポートの書き方に関する書籍がいろいろと市販されていますので、参考にするとよいでしょう。

「研究の意義」は、その研究を行うことがなぜ社会的に重要なのかを読み手に説得的に書く部分です。研究の意義を述べる上では、関連するテーマについての先行研究（これまでに行われてきた研究）に適宜言及しながら、自らの研究の意義を明確化させることが大切です。先行研究で既に分かっていることを自分が明らかにしようとしても、その研究には社会的な意義が認められません。他方で、自分が行おうとしていることがまったく新たな分野の研究のように見えても、これまでの研究の知見や方法論を活かして分析することにより研究の深みが出てきます。また、先行研究に適切に言及していることは、研究計画書の事前審査の中で、あなたがこの問題にどれだけ関心を向けてきたかを判断する手掛かりにもなります。先行研究を探す上では、できるだけ、その分野の専門家の学術書・学術論文を探して読んでおくことをお勧めします。[Google Scholar](https://scholar.google.com/)は学術論文、研究者の情報の検索に最も広く利用されています。また、[CiNii Research](https://www.cinii.com/)というサイトからも学術論文の検索ができます。

先行研究に言及する場合には、著者名・タイトル・出版社名・出版年（雑誌論文の場合は雑誌名・号数・ページ番号も）などを明記し、その先行研究の知見と自分の意見を明確に書き分けるようにしましょう。

「研究対象と方法」では、どのような対象に対して、どのような方法を用いて調査研究を行うかを記します。キャリアデザイン学研究科では、実証的な研究を重視しています。具体的には、ヒアリングやアンケートを実施する、自分が入手・利用できる既存データ（人事データ、進路データなど）を新たな視点から加工し分析する、などです。その場合、そのような調査研究が現実的に実施可能か、ということも重要な審査基準となります。例えばあなたが高校生にアンケートを実施したいと思っても、協力してくれる学校がなければ、学校を経由したアンケートは実質的に困難でしょう。そのような現実を踏まえて、実行可能な「研究対象と方法」を示すことが求められます。なお、調査研究の方法については、「キャリア調査研究法基礎」「質的調査法」「量的調査法」の授業を用意しています（このうち2科目以上が選択必修）。

## 2. 基礎から体系的に学びたいのですが…

上記「1」の通り、キャリアデザイン学研究科は入学段階で研究計画書の提出を求めています。つまり、そのテーマに関する基礎的な学習は自分でできていること、また入学後も自主的な学習を進めていくことができる能力があることを前提として、入学を許可するものとお考えください。

## 3. キャリアヒストリー報告書には何を書けばよいですか？

あなたのこれまでのキャリアヒストリーを書いていただきます。しかしながら、あなたの人生を大いに語っていただきたいわけではありませんので、簡潔にお願いします。

審査においては、上記の研究計画書との関連であなたのキャリアヒストリー報告書を検討します。つまり、あなたがどのような職務経験、社会経験を積み重ね、その中でどういう問題意識を持ち、なぜキャリアデザイン学研究科で学びたいと考えるに至ったかを推し量りながら読みます。より具体的には、「このキャリアヒストリーの人が、なぜこの研究テーマ・研究対象・研究方法なのか」、「この研究計画は、この方のキャリアヒストリーと照らし合わせて実現可能か」、「この研究を行うことは、この方のキャリアに今後活かしていけるだろうか」といった観点からキャリアヒストリー報告書を検討します。

## 4. 職務経験がないのですが…

職務経験があることは受験の条件ではありません。しかし、調査研究の対象が確保できるか、現実的な問題意識を持っているか、研究の成果を活かせるフィールドがあるか、といった観点が重視されることから、結果としてこれまでの入学者のほとんどは職務経験がある方々です。

## 5. どのような先生が授業を担当しますか？

「[法政大学大学院 入学案内 2027](#)」に担当教員名が記載されていますので、ご確認ください。それぞれの教員のプロフィールや研究業績などについては、科学技術振興機構の [researchmap](#) というサイトを検索して調べてみてください。専門分野や担当科目だけを見て判断するのではなく、実際の研究業績を検討して進学を判断することが望まれます。

※なお、キャリアデザイン学研究科では、出願にあたり、事前に志願者の皆様と連絡を取ることはいたしません。

※在外研究等のため、年度によっては専任教員の授業を兼任教員が担当する場合があります。

## 6. 指導教員はいつ決まりますか？

修論（修士論文）執筆のための指導教員は、修論提出の前年度の冬に決まる予定です。したがって、同じ年度に入学をしても、長期履修制度※の利用の有無、さらには長期履修制度を利用する方の中でも、3年を選択するか4年を選択するかによって、指導教員が決まるタイミングが異なります。例年、修論提出の前年度の秋頃に指導教員の希望状況を確認し、冬頃に希望状況・テーマ・研究方法等を総合的に勘案しながら、研究科教授会が指導教員を決定します。指導教員による修論指導は在籍予定年数の最終年度の1年となります。なお、出願の際には、書類に希望指導教員名を記入する必要はありません。

※長期履修制度は、入学時に申請することができる制度です。

## 7. 専攻するプログラムはいつ選ぶのですか？

キャリアデザイン学研究科には「発達・教育キャリアプログラム」「ビジネスキャリアプログラム」の2つのプログラムがあり、出願の際に選択する予定のプログラムを記入していただきます。いずれかに属するプログラム科目を3科目以上履修し、当該プログラムの担当の教員の演習（修士論文執筆指導）を受講することが修了の要件の一部となっています。

このプログラムは、入学後に一定期間を経過したのちに正式に決定します。出願時に選択したプログラムからの変更はその時点までは可能です。しかし入学前から、自らの研究計画と照らし合わせて、どちらのプログラムで学ぶのか考えておき、1年次からの科目履修に反映させることが望ましいでしょう。

## 8. 事前の相談は可能ですか？

大学院入学に関するご相談は、進学相談会を利用してください。今年度の実施情報は以下のウェブサイトで掲載します。いずれもZOOMを利用したオンラインでのグループ相談会を実施します。

<https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/sodankai/>

## 9. 仕事との両立が心配です…

標準的な通学日数は、1年次は土曜を含めて週3日程度です。修士論文を執筆する年次は科目の履修よりも修士論文の執筆が中心となります。修士論文執筆のための演習の曜日・時限は、各指導教員と相談の上で設定されます。2018年度より長期履修制度（3年または4年）を導入しましたが、これまでの修了生の多くの方は、2年間で修士論文を書きあげ、修士課程を修了しています。セメスター制を取っているため、2年を超える場合、2年半での修了も可能です。

## 10. 時間割は公開されていますか？

曜日・時限などの時間割は[シラバス](#)をご参照ください。なお、次年度の時間割については毎年3月中旬に更新（公開）予定です。

## 11. 短大卒ですが、受験できますか？

4年制大学を卒業していない方については、事前に別途個別の資格審査を行い、受験を認めるか否かを判断します。入試要項をよく確認してください。これまでに、短大卒などでも受験を認められたケースはあります。

## 12. 筆記試験では、どのような問題が出ますか？

[大学院ウェブサイト](#)で過去問題を閲覧することができます。

### 13. 口述試験では、どのようなことが尋ねられますか？

研究計画書やキャリアヒストリー報告書などの事前提出書類をもとに、主に問題関心や研究計画について質問を行いますので、それに答えていただくことが中心となります。遠方の方や勤務条件が厳しい方などについては、実際に通学ができるかを確認させていただくこともあります。

### 14. 過去の修士論文のテーマはどのようなものですか？

最近の修士論文のタイトルを抜粋して例示すると、以下の通りです。

#### <発達・教育キャリアプログラム> (2022年度入学生までは「キャリア教育・発達プログラム」)

- ・ロールプレイングによるキャリアコンサルタント教育モデルの研究—テンプレート式面談のメカニズムと指導プロセスに着目して—
- ・高校生の学習観と社会移行一次世代に求められる資質・能力の育成に向けて—
- ・教員が過労死等に至る要因と現場における再発防止策の研究—公務災害認定を支援した教職員組合役員の語りから—
- ・アカデミックスキルの習得がキャリア探索にあたえる影響—情報収集行動や問題設定・テーマ設定行動に注目して—
- ・大学職員のジョブローテーション制度に関する評価研究
- ・看護学生の「患者に対する人間関係形成能力」の成長に影響を与える機会に関する研究—人を支える仕事の専門性はどのように育成されるか—
- ・海外大学卒業を経た日本語学校留学生の就労プロセス—企業と求職者を変える「労働力媒介機能」の可能性—
- ・通信制高校通学型における生徒のキャリア形成の現実—H通信制高校の事例を中心に—

#### <ビジネスキャリアプログラム>

- ・組織内キャリアにおける自律的キャリア形成の質的研究—総合商社3年目社員のインタビュー調査から—
- ・新任管理職のトランジションに関する考察—多様な部下を持つ新任管理職に対する支援に着目して—
- ・主観的キャリア・プラトールの抑制要因—F社課長職の調査結果からの洞察—
- ・放送局の番組制作現場における女性活躍の現在地と今後の課題
- ・派遣労働者の派遣先での早期終了抑制に有効なマッチング—人事管理の特徴と派遣労働者の希望との適合効果—
- ・企業内キャリアコンサルタントはキャリア自律度が低い社員をどのように支援して効果をもたらすのか
- ・アスリートの統合的ライフキャリア開発支援—ソフトテニス選手の事例分析—
- ・再雇用終了後のライフスタイルの探求プロセス—アイデンティティの再体制化の視点から—